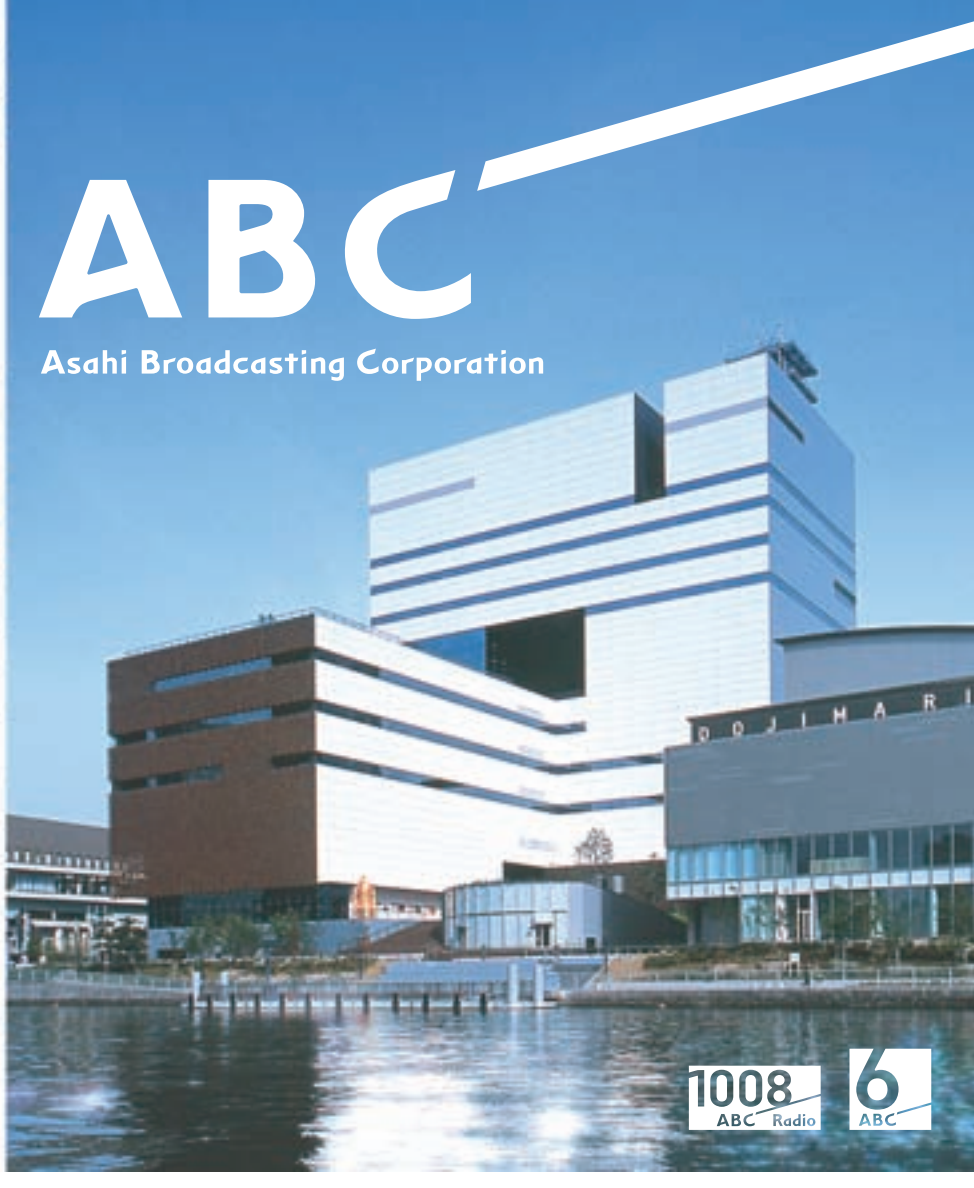
ABC

Asahi Broadcasting Corporation



第82期 中間事業のご報告

平成20年4月1日～平成20年9月30日

朝日放送株式会社

証券コード:9405

INDEX

◆ごあいさつ …… 1
◆テレビ …… 3
◆ラジオ …… 4
◆その他事業 …… 5
◆連結財務諸表 …… 7
◆〈ご参考〉個別財務諸表(要約) …… 9
◆会社データ …… 10

DNV
MGMT. SYS.
RvA C 425
ISO 14001 REGISTERED FIRM
DNV Certification B.V., THE NETHERLANDS

●ごあいさつ Message from the President

代表取締役社長　**渡 辺 克 信**

朝日放送信条

一、平和と自由の精神を貫き、地域社会と文化の向上につくす。

一、進歩と寛容の理念により、品位と責任を重んじ、社会の信頼にこたえる。

一、報道と評論は常に中正な立場に立って、真実を正しく敏速に伝える。

一、番組は良識と知性を高めつつ、楽しさとやすらぎを与える。

一、広告は誇張を排し、清新な創意によって産業の発展を期する。

正しい報道　Accurate information

美しい表現　Beautiful expression

楽しい番組　Cheerful programs

株主の皆様方には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、第82期中間期（平成20年4月1日から平成20年9月30日）の事業報告がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

当中間期のわが国経済は、アメリカに端を発した金融危機の拡大により世界経済が減速するなか、原油価格の上昇や円高などの影響による企業収益の悪化や、個人消費が弱含みとなるなど景気は減速傾向を強めました。このような経済環境は、広告業界にも多大な影響を与えました。

さて、前回ご報告させていただきましたが、当社は当期からCS委託放送事業を営む株式会社スカイ・エーを連結子会社といたしました。株式会社スカイ・エーは平成2年の設立以来、順調に業績を伸ばしてまいりました。今後、競争激化が予想されるCS業界での勝ち組をめざし、当社との資本関係をより強固にすることで、当社グループとして番組制作・コンテンツ調達などでシナジー効果を発揮していきたいと考えております。

当中間期は、放送事業ではテレビ視聴率は全日帯・プライム2帯においては1位を堅持したものの、ゴールデン帯、プライム帯では2位となりました。また、ラジオ聴取率では2006年以来10回連続の全局首位を達成することができました。ハウジング事業では、首都圏で住宅展示場を新しく1会場オープンいたしましたが、神戸HDC（ハウジングデザインセンター）で大型テナントの撤退があり増収にはつながりませんでした。ゴルフ事業では懸案であったバンカーの整備工事も終了し、秋のトーナメントに備えることができましたが、前年に比べビジターの来場者は若干減少いたしました。

以上のような事業活動の結果、当社グループ連結での売上高は株式会社スカイ・エーの連結子会社化による増加があったものの、すべての事業セグメントにおいて減収となったため407億6千5百万円（前中間期比5.2%減）となりました。セグメント別では放送事業の売上高は358億6千2百万円（前中間期比5.6%減）、ハウジング事業は44億9百万円（前中間期比1.9%減）、ゴルフ事業は4億9千4百万円（前中間期比2.5%減）となりました。費用面では当社と連結子会社数社が新社屋へ移転したことに伴う一時的な費用、また新旧両社屋併用期間の二重経費や移転記念放送、イベントなどによる費用増があり、売上原価は288億1百万円（前中間期比1.9%増）、販売費及び一般管理費も135億4百万円（前中間期比4.0%増）となりました。その結果、当社グループでの営業損失は15億3千9百万円（前中間期比187.6%減）、経常損失は14億8千3百万円（前中間期比173.5%減）と、前年度と比べて大幅な減益となりました。

当社単独の業績としましては、売上高は342億9千7百万円（前中間期比9.2%減）となりました。テレビ放送事業収益では主力であるテレビスポット収入が、全国的に出稿量が減少した影響を受け、在阪広域4局中のシェアを25.9%としたものの前年に比べ10.0%の減収となりました。テレビタイム収入もネットワークセールスが低調に推移したことにより、テレビ放送事業収益は296億1千5百万円（前中間期比8.9%減）となりました。ラジオ放送事業収益は18億5千8百万円（前中間期比8.0%減）、またその他収益では、主として催物収入が減少し28億2千3百万円（前中間期比12.5%減）となりました。

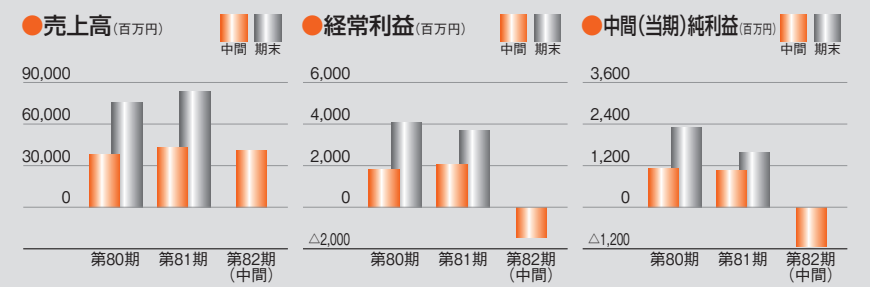
以上の結果、当社単独の営業損失は18億4千3百万円（前中間期比270.1%減）、経常損失は18億1千1百万円（前中間期比245.8%減）、中間純損失は12億3千9百万円（前中間期比278.5%減）となりました。

おかげさまで、当社の新社屋移転およびグループ会社の「ABCアネックス」への移転も無事に終了いたしました。当社は新しい社屋を「デジタル時代の創造工場」として活用し強力なコンテンツ制作に邁進してまいります。今後も業績の改善に努め、改革の歩みを止めることなく、より一層グループとして総合力を高め、株主価値向上にむけて事業の再構築を進めてまいります。株主の皆様には、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（注）当社は四半期連結財務諸表規則及び四半期財務諸表等規則を採用しておりますが、本報告書では中間と読み替えて表示しております。

平成20年12月

代表取締役社長　渡辺克信



（連結ベース）

金曜21時ドラマ
「パズル」

毎週月～金曜　あさ6時45分

毎週月～金曜　午後3時49分

「探偵!ナイトスクープ
グランドアカデミー大賞」

●上半期全日帯平均で3年連続首位を獲得

朝・夕・23時台のABC制作3ベルト番組や、プライム帯（19時～23時）のABC発ネット3番組など自社制作番組の強化継続をし、当上期も非常に安定した支持を得ました。この結果、全日（6時～24時）の時間帯では、在阪各局において上期では昨年に続いて3年連続の首位となりました。上期の平均視聴率は、朝帯「おはよう朝日です」が11.9%、夕方帯「ムーブ!」が6.2%、23時台は月～木曜「ナイトinナイト」が11.4%、金曜「探偵!ナイトスクープ」が19.2%と好調で、昨年上期に対してHUT（総世帯視聴率）が各時間帯で低下するなか、前年度に続いて堅調に推移しています。

プライム帯（19時～23時）では、金曜21時台のABC・テレビ朝日共同制作ドラマ枠で、この4月クールには「パズル」を放送。全10話平均視聴率は関西、関東共に10%を超えました。 ABC制作の「土曜ワイド劇場」は、関西で20%を超えた7月19日放送の「京都殺人案内31」をはじめ、いずれの作品も好調です。

プライム2帯（23時～25時）では、2003年上期以降11期連続で首位を堅持しています。営業的に、全日とプライム2帯の視聴率はタイム・スポットの売上に大きく影響しており、当社はこの時間帯において、在阪各局の中で圧倒的優位を保っております。

番組放送20周年を記念して6月20日（金）に115分に亘って放送した「探偵!ナイトスクープグランドアカデミー大賞」が、視聴率23.5%、シェア50.5%と、深夜帯にも関わらず圧倒的な強さを誇りました。

●V10達成で〝ナンバー1ラジオ〟堅持

今年6月に行われましたビデオリサーチ関西圏ラジオ聴取率調査において、ABCラジオはFM局を含めた関西ラジオ全局の中で1位となりました。これで2006年4月以降10回連続のトップを獲得したことになります。しかも今回の調査においては全放送時間帯平均の聴取率で他局に大差をつけての完勝でした。土曜日・日曜日の平均聴取率でも首位を獲得した結果、全曜日でトップ・レーティングとなっています。番組別ランキングでは、1位の「おはようパーソナリティ道上洋三です」をはじめ、「全力投球!!妹尾和夫です」など人気番組がベスト10内で8番組を占めるなど、ABCラジオは名実ともに関西ナンバー1ラジオ局として聴取者から大きな支持を集めています。

●新社屋からの公開生放送

今年6月の新社屋移転を記念してABCラジオは数多くのイベントを開催しました。ラジオは、生ワイド番組を中心に放送していますので、主だった番組を新ABCホールから公開生放送して、リスナーの皆様を新社屋に招待しました。また記念イベントとしては毎週日曜日午前に放送中の「日曜落語・なみはや亭」の特別興業を5日連続6公演、新ABCホールにおいて開催し、会場は熱心な落語ファンで連日満席となりました。

コンクール関連では、2008年日本民間放送連盟賞ラジオ報道番組部門で「動かない救急車～救急医療崩壊の現場」が優秀賞を受賞し、ラジオエンターテインメント部門で『なんでこんなに巧いんやろ～暁照夫60年・わたしの舞台は道頓堀』が優秀賞を受賞しました。

毎週月～金曜　あさ6時30分

毎週月～金曜　午前9時

おはようパーソナリティ
道上洋三です
アシスタント10周年記念
「ららら クッキング」

定価1,600円
全国各書店にて発売中

ABC radio 1008 kHz

「星空コンサート」

「ルーブル美術館展」

ロックフェスティバル
「SUMMER SONIC 08」

「評判! なかむら屋」

●イベント事業

事業イベントでは、4月に大阪城西の丸庭園で、「星空コンサート」を開催しました。大植英次氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏が8,000人の聴衆を魅了しました。4月から7月には新社屋移転記念の「ルーブル美術館展」を開催、23万人を超す入場者がありました。また5月から6月には同じく新社屋移転記念として、「中之島演劇祭2008」を新社屋のABCホールで開催。関西の8劇団が8週にわたって熱い舞台を繰り広げました。8月には西日本最大級のロックフェス、「SUMMER SONIC 08」を開催。7万人の聴衆が舞洲の特設会場に集結しました。9月にはブロードウェイミュージカル「SWING!」を上演。名曲スウィングジャズとエネルギッシュなダンスの競演に、詰め掛けたミュージカルファンは大いに盛り上がりました。その他、キース・ジャレットやBOYZ II MEN、クミコらのコンサートや、プリキュアや仮面ライダーの子供向けイベントなど、様々なイベントを開催しました。

●情報通販事業

3年目に入ったショッピング事業は順調に推移しています。「評判!なかむら屋」では、情報番組としても楽しめるうえ、日々の生活を豊かにするこだわりの逸品を幅広く紹介、販売しています。また、6月からEコマース事業を拡充し、ホームページ上にDVD、番組キャラクターグッズを販売する店舗を新設するなど、売上、利益を大きく伸ばすことができました。

●コンテンツ事業

番組コンテンツの放送外利用では、「必殺」シリーズのパチンコ台が引き続き好調だったほか、アニメ「プリキュア」シリーズの商品化なども好収益を上げています。ドラマやバラエティー番組の海外への販売や、「金曜21時ドラマ」「夏の甲子園03〜07」「虎バン」「台湾ドラマ」などのDVD化の取組みも収益アップに大きく貢献しました。

デジタル関連事業では、携帯サイトと放送番組との連携の強化により、携帯有料会員数が10%を上回る伸びを達成しました。また今年9月にはインターネットでのVODサービス「ABC動画倶楽部」を立ち上げ、自社サイトによるアニメやドラマなどの動画配信を開始しました。

「女帝」「オトコの子育て」「4姉妹探偵団」
DVD BOX

●ザ・シンフォニーホール

開館26年目となるザ・シンフォニーホールでは、4月からの演奏会として世界的チェリストの「ヨーヨー・マ&シルクロード・アンサンブル」を開催したほか、史上最高の弦楽四重奏団と言われる「アルバンベルク四重奏団フェアウエル・ツアー」や「オルフェウス室内管弦楽団&五嶋龍」、そして130年以上の歴史を誇るドイツの名門オーケストラ「ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団」2公演などを主催し好評を得ました。また毎年恒例の金聖響の指揮によるコンサート・シリーズは、今回「音楽至上主義」と題してフランス、ドイツ、アメリカにまつわる名曲を中心に4回公演を開催中です。

ヨーヨー・マ&シルクロード・アンサンブル

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

中間連結貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当中間期 平成20年9月30日現在	前　期 平成20年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	32,145	33,939
現金及び預金	10,548	7,064
受取手形及び売掛金	12,188	13,398
有価証券	4,596	10,098
番組勘定	789	851
その他	4,029	2,532
貸倒引当金	△ 7	△ 6
固定資産	69,340	64,377
有形固定資産	49,256	45,089
建物及び構築物（純額）	24,909	8,172
土地	10,352	10,527
その他（純額）	13,994	26,389
無形固定資産	1,871	1,004
のれん	149	―
その他	1,721	1,004
投資その他の資産	18,212	18,283
その他	18,257	18,326
貸倒引当金	△ 45	△ 43
資産合計	101,485	98,316

科目	当中間期 平成20年9月30日現在	前　期 平成20年3月31日現在
（負債の部）		
流動負債	13,970	16,098
短期借入金	700	700
1年内返済予定の長期借入金	320	320
未払金	7,527	9,013
未払法人税等	193	989
引当金	20	794
その他	5,208	4,281
固定負債	33,076	26,363
長期借入金	5,090	5,250
退職給付引当金	10,948	10,818
引当金	45	45
負ののれん	602	675
その他	16,391	9,574
負債合計	47,047	42,462
（純資産の部）		
株主資本	51,445	52,784
資本金	5,299	5,299
資本剰余金	3,610	3,610
利益剰余金	42,535	43,875
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	383	607
その他有価証券評価差額金	383	607
少数株主持分	2,610	2,462
純資産合計	54,438	55,854
負債純資産合計	101,485	98,316

（注）1.金額は、百万円未満を切捨表示しております。
2.当社は四半期連結財務諸表規則を採用しておりますが、本表では中間と読み替えて表示しております。

中間連結損益計算書

（単位:百万円）

科目	当中間期 平成20年4月１日から 平成20年9月30日まで	前中間期 平成19年4月１日から 平成19年9月30日まで	前　　期 平成19年4月１日から 平成20年3月31日まで
売上高	40,765	42,998	83,352
売上原価	28,801	28,250	54,244
売上総利益	11,964	14,747	29,107
販売費及び一般管理費	13,504	12,990	25,880
営業利益又は営業損失（△）	△ 1,539	1,757	3,227
営業外収益	256	315	602
営業外費用	199	53	162
経常利益又は経常損失（△）	△ 1,483	2,019	3,666
特別利益	56	―	78
特別損失	271	59	413
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失（△）	△ 1,698	1,959	3,332
法人税等	△ 608	776	1,556
少数株主利益	84	117	200
中間（当期）純利益又は中間純損失（△）	△ 1,174	1,066	1,574

（注）1.金額は、百万円未満を切捨表示しております。
2.当社は四半期連結財務諸表規則を採用しておりますが、本表では中間と読み替えて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位:百万円）

科目	当中間期 平成20年4月１日から 平成20年9月30日まで	前中間期 平成19年4月１日から 平成19年9月30日まで	前　　期 平成19年4月１日から 平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,556	5,021	6,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,313	603	△ 2,062
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 766	△ 100	△ 758
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,523	5,524	3,631
現金及び現金同等物の期首残高	15,554	11,922	11,922
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	107	―	―
現金及び現金同等物の期末残高	13,138	17,447	15,554

（注）1.金額は、百万円未満を切捨表示しております。
2.当社は四半期連結財務諸表規則を採用しておりますが、本表では中間と読み替えて表示しております。

●〈ご参考〉個別財務諸表（要約） Non-Consolidated Financial Statements

中間貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当中間期 平成20年9月30日現在	前　期 平成20年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	27,729	29,963
固定資産	57,606	52,229
有形固定資産	38,081	34,119
無形固定資産	1,691	973
投資その他の資産	17,833	17,136
資産合計	85,335	82,192
（負債の部）		
流動負債	12,053	14,164
固定負債	22,931	15,984
負債合計	34,984	30,148
（純資産の部）		
株主資本	49,959	51,428
資本金	5,299	5,299
資本剰余金	3,610	3,610
利益剰余金	41,049	42,519
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	391	615
その他有価証券評価差額金	391	615
純資産合計	50,351	52,044
負債純資産合計	85,335	82,192

（注）1.金額は、百万円未満を切捨表示しております。
2.当社は四半期財務諸表等規則を採用しておりますが、本表では中間と読み替えて表示しております。

中間損益計算書

（単位:百万円）

科目	当中間期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	前中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前　期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	34,297	37,767	73,032
売上原価	23,932	24,208	46,314
売上総利益	10,364	13,559	26,717
販売費及び一般管理費	12,207	12,475	24,865
営業利益又は営業損失（△）	△ 1,843	1,083	1,852
営業外収益	169	201	362
営業外費用	136	42	108
経常利益又は経常損失（△）	△ 1,811	1,242	2,106
特別利益	67	29	128
特別損失	271	16	269
税引前中間（当期）純利益又は税引前中間純損失（△）	△ 2,015	1,256	1,965
法人税等	△ 775	562	1,066
中間（当期）純利益又は中間純損失（△）	△ 1,239	694	898

（注）1.金額は、百万円未満を切捨表示しております。
2.当社は四半期財務諸表等規則を採用しておりますが、本表では中間と読み替えて表示しております。

剰余金の配当に関する事項

		当　期	前　期
1株当たり配当金	中間期末	普通配当 45円	普通配当 45円
	期　末	普通配当 45円（予想）	普通配当 45円 記念配当 10円
	年　間	90円（予想）	100円

会社の概況（平成20年9月30日現在）

会社名	朝日放送株式会社 Asahi Broadcasting Corporation
創立	昭和26年3月15日
資本金	52億9,980万円
従業員数	656名
事業内容	放送法および有線放送法による 一般放送事業　他
本社	〒553-8503 大阪市福島区福島一丁目1番30号 Tel.(06)6458-5321(代表)

役員（平成20年9月30日現在）

代表取締役社長	渡辺　克信	取締役	坂井　信也
代表取締役専務取締役	北畠　宏泰	取締役	松尾　好章
常務取締役	和田　省一	取締役	水野　文英
常務取締役	木下　栄一	取締役	古川　賢三
常務取締役	脇阪　聰史	取締役	福田　正史
取締役相談役	西村　嘉郎	取締役	田仲　拓二
取締役	領木新一郎	常勤監査役	村井　守
取締役	脇　英太郎	監査役	白賀　洋平
取締役	池内　文雄	監査役	黒石　輯
取締役	君和田正夫	監査役	橋本　宗利
取締役	山口　昌紀		

株式の概況（平成20年9月30日現在）

●発行可能株式総数　14,400,000株

●発行済株式総数　4,183,300株

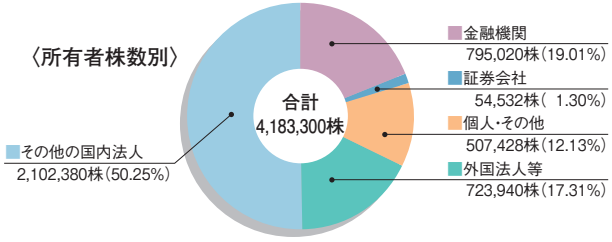
●株主数　1,810名

●大株主

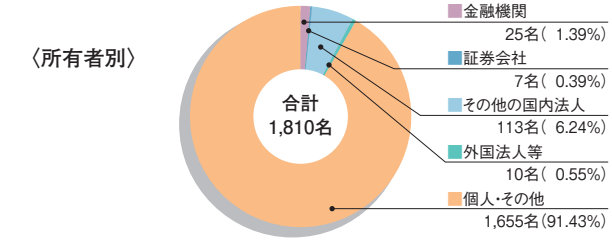
株主名	所有株式数	議決権比率
株式会社朝日新聞社	622,490 株	14.9 %
モルガン・スタンレー アンド カンパニー インク	575,690	13.8
株式会社テレビ朝日	387,760	9.3
学校法人　帝京大学	155,400	3.7
朝日新聞信用組合	150,000	3.6
村山　美知子	145,500	3.5
日本生命保険相互会社	125,650	3.0
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	101,560	2.4
大阪瓦斯株式会社	85,500	2.0
近鉄バス株式会社	80,000	1.9

●株式分布状況

〈所有者株数別〉



〈所有者別〉



Asahi
Broadcasting
Corporation

当社のホームページもご覧ください。
http://asahi.co.jp

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	（住所変更等用紙のご請求）0120-175-417 （その他のご照会）0120-176-417
（インターネットホームページURL）	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社　全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 〈http://asahi.co.jp〉

朝日放送株式会社

〒553-8503 大阪市福島区福島一丁目1番30号
TEL　06−6458−5321（代表）

PRINTED WITH SOY INK
この中間事業のご報告は、環境に配慮し、大豆インキを使用しております。